

建 第 94 号
平成20年10月17日

国土交通省 道路局長 殿

宮古市長 熊 坂 義 裕



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記について、
別添のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岩手県 宮古市

1. 新たに策定される「道路の中期計画」について

- ① 「つながってこそ高規格道路」という観点から、新たに策定される「道路の中期計画」において、地方の意見を十分に反映させること。
- ② 費用対効果については、防災上の観点や救急医療への対応の観点など地域住民の安全・安心な暮らしを実現するための指標を考慮すること。

2. 地域高規格道路の整備促進について

地方自治体の財政事情から地域高規格道路の整備が進まない地域については、国が権限代行を行うなど国による直接整備を検討すること。

3. 地方分権について

県庁所在地と重要港湾都市をつなぐ主要な幹線道路（道路法施行規則第1条の2第2号）や地方の交通事情を考慮し、国の指定区間に指定すべき路線を再検討すること。

4. 道路特定財源について

平成20年5月13日、平成21年度から道路特定財源が一般財源化する「道路特定財源等に関する基本方針」が閣議決定された。

現在、「必要と判断される道路」の基準について議論されているが、道路整備が立ち遅れている地域は、道路特定財源の制定の趣旨に沿って、宮古市が何度も訴えてきている「真に必要な道路」整備のため財源を確保すること。

5. 交付金制度について

- ① 地方の道路整備を推進するため、5月13日衆議院において再可決された「道路整備費の財源等の特例に関する法律の一部を改正する法律」（成立後法律の名称が「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」に変更）の地方道路整備臨時交付金制度及び地方道路整備臨時貸付金制度は継続すること。
- ② 地方道路整備臨時交付金の対象事業を拡大すること。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②-1 地域の現状と抱える課題

岩手県 宮古市

○現状

1. 当市は、二次救急医療機関の医師不足が進行し、さらに盛岡市にある高度救命救急センターへの搬送に最短で2時間要している。

2. 当市は、これまで幾度となく大きな地震による津波に見舞われ多くの犠牲者を出してきた。しかし、大きな津波が来た場合、市街地を縦断する国道45号は浸水し、県都盛岡市との連絡道路である国道106号は片道2時間を要し、迂回路は更に多くの時間を要する。また、本市は少ない平地部に住民が住んでおり（平地部は5%未満）、津波等の災害が起これば孤立集落となる恐れがある。

< 別添 「資料1」、「資料2」参照 >

3. 当市は、岩手県沿岸地域最大の人口を有するまちにも関わらず、鉄道・道路の高速交通の整備が進んでいないため、岩手県内陸部との経済格差が拡大している。

また、観光客も年々減少傾向にある。

< 別添 「資料3」参照 >

○課題

⇒ 搬送時間の短縮のための「命の道路」整備が必要

⇒ 災害時における緊急輸送（道）路の確保が必要

⇒ 高速交通ネットワークの整備が必要

4. 当市は、人口減少の中、少子高齢化が進行しており、今後まちの活性化が失われていく不安がある。

＜ 別添 「資料4」 参照 ＞

5. 当市の事故件数は、ここ数年横ばいであるが、交通事故による死者の割合は県内平均を上回っている。

＜交通事故件数＞

平成16年＝207件

平成18年＝199件

＜交通事故による死者の割合（対人口）＞

平成16年 宮古市＝0.98→県平均＝0.82

平成18年 宮古市＝0.67→県平均＝0.55

6. 当市は、入り組んだリアス式海岸のため土地の起伏が大きく、縦断する国道45号は、縦断勾配がきつい上、急カーブもあり走行環境が非常に悪い状態である。

また、市内を走る道路交差点に右折レーンが少ないため、交通量が多い箇所手は交通渋滞が発生している。

⇒ 住民の定住を促進するため道路整備が必要

⇒ 交通事故の減少するため、交通安全対策が必要

⇒ 走行環境の改善が必要

【 宮古市総合計画より抜粋 】

宮古市の将来像
森・川・海とひとが共生する安らぎ
のまち

まちづくりの基本的な考え方

- 豊かな自然や伝統など地域の多様な資源を守り活用する「創造」のまちづくり
- 市民と行政とのパートナーシップによる「協働」のまちづくり
- 新たな地域が一体的につながり、相互に高め合う「連携」のまちづくり
- 「自己決定、自己責任」の原則に基づく「自立」のまちづくり

まちづくりの基本的な方向性

多様な産業が結びつき力強く
活動するまちづくり

健やかで心豊かなひとを育む
まちづくり

自然と共に生きるまちづくり

基本施策

三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成

活力に満ちた産業振興都市づくり

安全で快適な生活環境づくり

主要な施策

総合交通体系の整備

幹線道路網の整備

市内交通網の整備

施策の方向性

- 三陸縦貫自動車道の整備促進
- 一般国道の整備促進
- 地域高規格道路の整備促進
- 主要地方道・一般県道の整備促進

施策の方向性

- 市内幹線道路の整備
- 生活関連道路の整備
- 市街地道路の整備

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

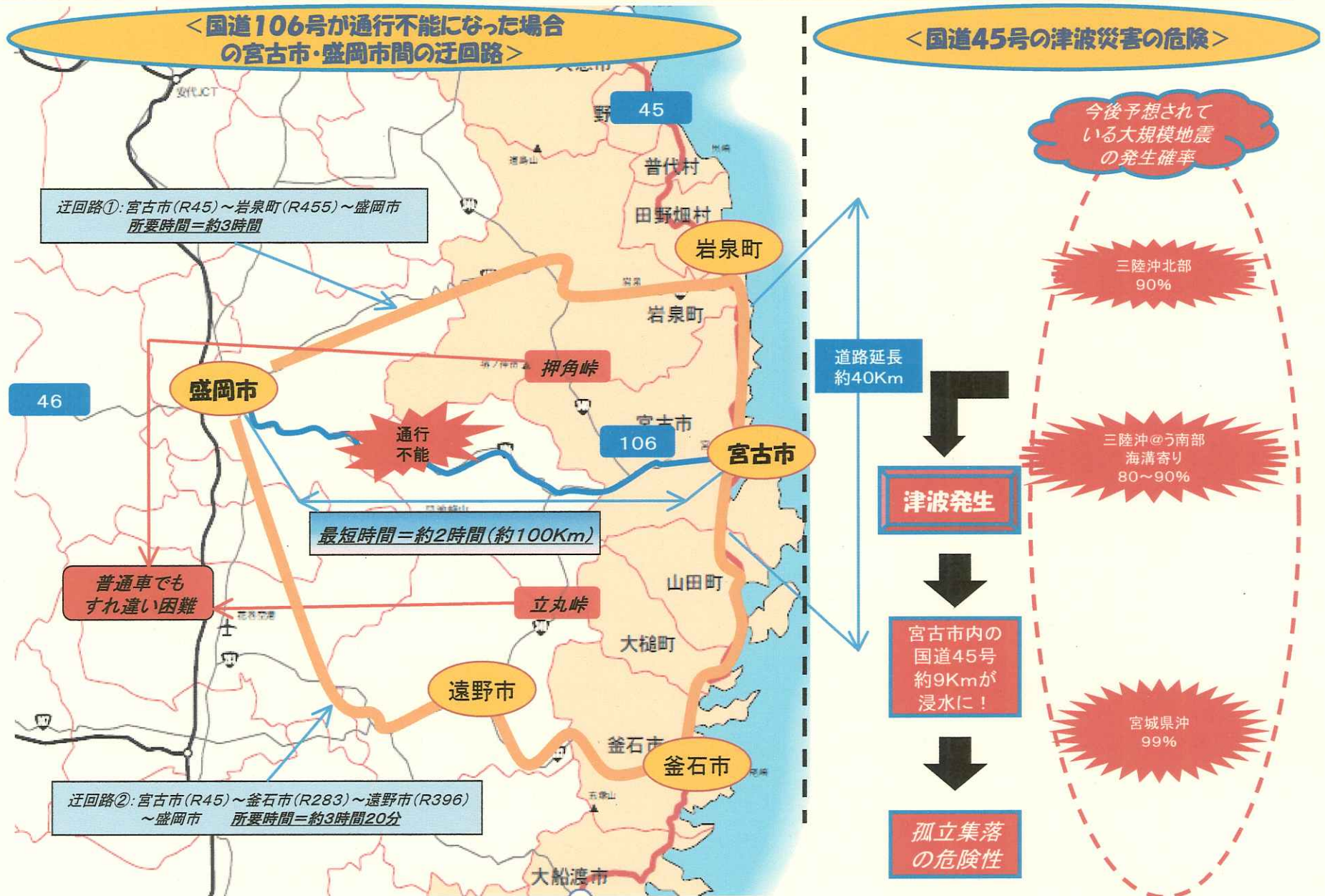
岩手県 宮古市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
①三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤整備	三陸縦貫自動車道「宮古道路」の整備促進 三陸縦貫自動車道「宮古北道路（仮称）」の早期事業化 宮古盛岡横断道路「宮古西道路」の整備促進 宮古盛岡横断道路「築川道路」・「都南川目道路」の整備促進	・宮城県沖地震や三陸沖地震による津波が発生した場合、市街地の浸水箇所を迂回し、内陸地方との連絡道路として機能。 →孤立集落の解消、災害時の緊急輸送路の確保 ・緊急災害時の迂回路の確保 ・移動時間の短縮 →高度救命救急センターへの搬送、観光客の増加、定住の促進、物流の活性化による地域間格差の解消 ・交通分散による市街地の渋滞緩和 ・人身事故の減少	・沿道の環境改善（CO₂の削減）
②幹線道路網の整備	国道45号田老水沢地区登坂車線の設置 国道45号佐原地区右折レーン設置（下り線）	・低速大型車による追従する車両の渋滞解消 ・右折待ちの車両の停車による交通渋滞解消と追突事故解消	

③市内交通網の整備	国道340号の刈屋和井内地区道路改良	・幅員狭隘・見通し不良の解消による走行環境の改善	
	国道106号「区界道路（仮称）」の早期事業化	・移動時間の短縮 →高度救命救急センターへの搬送（医療の地域間格差の解消）、観光客の増加、定住の促進、物流の活性化 ・急カーブ・急勾配の解消による走行環境の改善 →特に、冬期間積雪時の安全の確保	
	国道106号「墓目地区」・「茂市地区」・「平津戸地区」の道路改良の早期事業化		
	国道106号（宮町2丁目）交差点改良	・市街地の交通渋滞の解消	
	主要地方道重茂半島線道路拡幅	・幅員狭隘・急カーブ・見通し不良の解消による走行環境の改善 →海産物運搬の安全走行の確保と緊急車両搬送の迅速化	
	市道北部環状線の整備促進	・宮古病院への移動時間の約10分短縮 ・市街地の交通渋滞の解消	

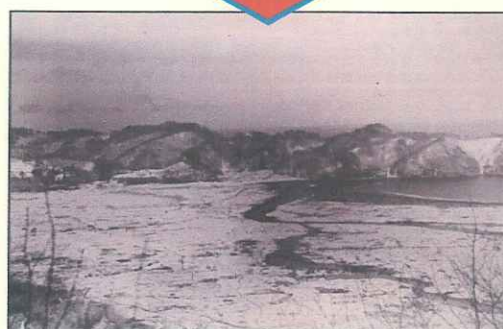
④その他	市道磯鶏金浜線道路改良 市道松山線道路改良 市道刈屋和井内線道路改良及び歩道設置 道路整備による宮古市活性化の例 < 別添「資料5」参照 >	・沿線地域住民の生活道路としての安全性・利便性の向上 ・沿線地域住民の生活道路としての利便性の向上 ・新里中学校の生徒の通学路の安全確保	・平成19年度宮古市要望書より抜粋
------	---	--	---

資料1: 宮古市の緊急輸送路の必要性



資料2: 津波による宮古市の過去の被災状況

	発生年月日	地震の大きさ	死者行方不明（宮古市）
明治三陸津波	明治29年6月15日	マグニチュード8.5	3,588名
昭和三陸津波	昭和8年3月3日	マグニチュード8.1	1,094名
チリ沖地震津波	昭和35年5月23日	マグニチュード8.5	1名



明治29年: 明治三陸津波

昭和8年: 昭和三陸津波
(上: 津波が来る前 下: 津波後)

昭和35年: チリ沖地震津波

資料3: 企業の状況と宮古市の観光客の推移

【 製造品出荷額 】

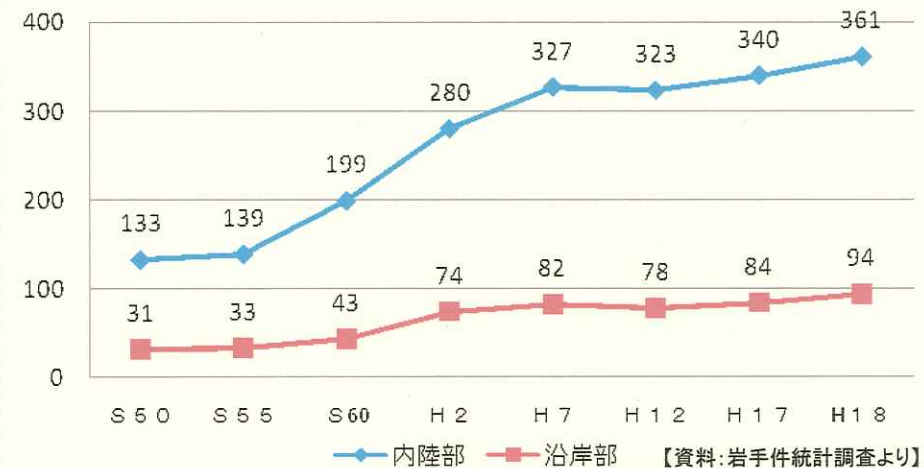
(単位: 百万円)



【資料: 岩手県統計調査より】

【 誘致企業事業所数 】

(単位: 件)



【資料: 岩手県統計調査より】

＜宮古市の観光客の推移＞

(単位: 千人)



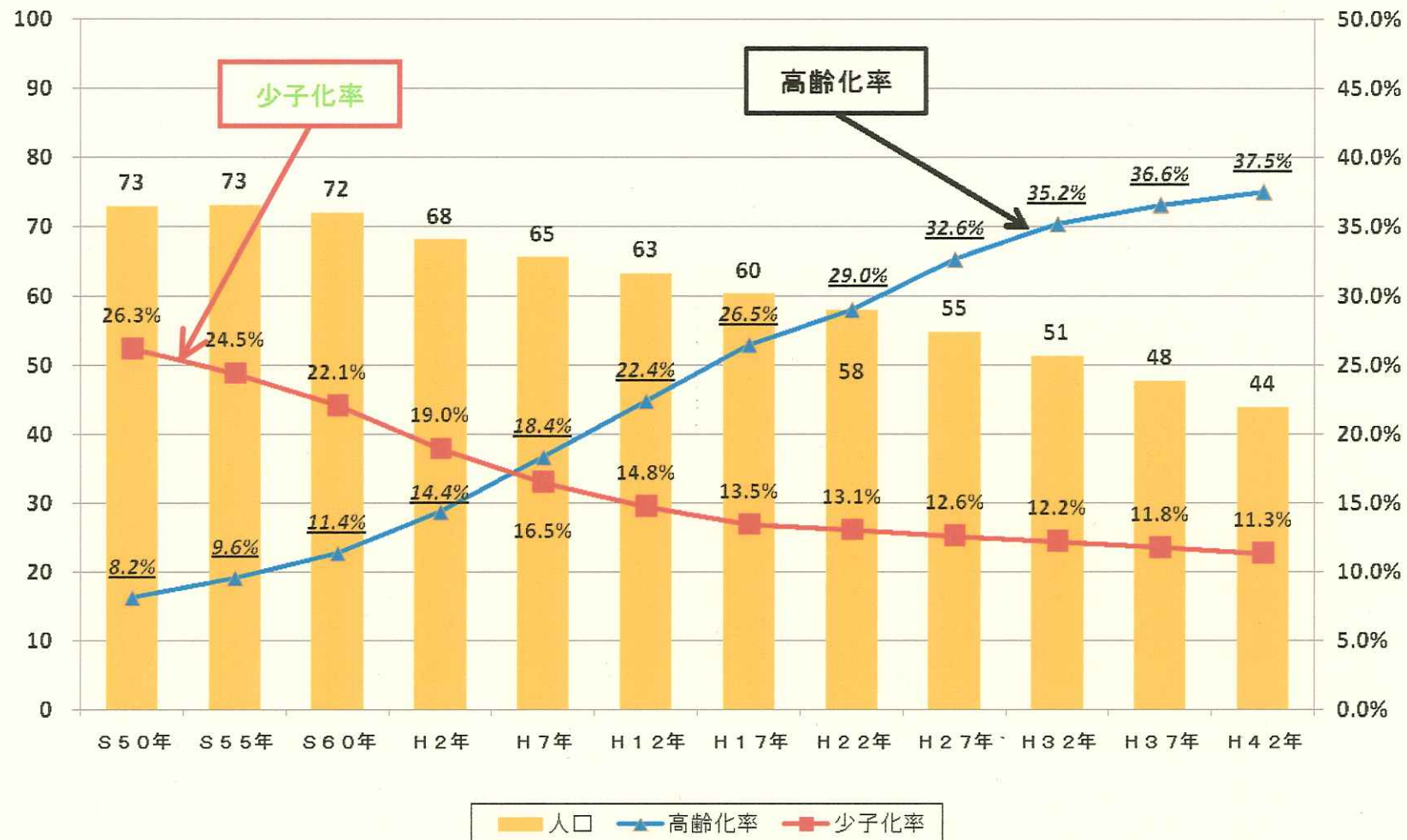
【資料: 宮古市の統計より】

資料4: 宮古市の人口推移

【宮古市の人口と少子高齢化の推移予測】

【人口(単位:千人)】

【少子高齢化率】



【資料: 岩手県人口移動報告年報、国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所より】

資料5: 三陸縦貫自動車道全線開通による宮古市のまちづくり例

宮古から世界へ

—精密コネクタのまち宮古—

世界一のコネクタ・金型技術が集積
世界中の携帯電話の4割に宮古のコネクタ



■中核企業(東北ヒロセ)の売上高

年度	2004	2005	2006
売上高	223億円	314億円	355億円

※2005年度実績(億円)

三陸縦貫自動車道がつなぐと

- ・物流コストが軽減できます。
- ・冬期間輸送の安全性が高まります。
- ・他地域との競争力が向上します。
- ・企業の集積が更に進みます。

売上額の飛躍的増加が見込めます

目標額

1,000億円

三陸縦貫自動車道の早期完成を

宮古で生産されるコネクタは海外でも評価が高く、輸出が年々拡大しています。コネクタは、益々超小型化、高品質が求められることから、世界一の技術力を誇る当社は、家業の発展的な伸びが期待されます。世界一の工場、1,000億円以上の売上高を目指していますが、そのためには三陸縦貫自動車道の早期完成が必要です。宮古から仙台まで3時間で直行できれば輸送コスト等の効率化が図られ、又、協力会社の集積も更に進んで、コネクタ・金型製造では宮古が世界の中心になれるでしょう。三陸縦貫自動車道の一日も早い全線開通を願っています。

東北ヒロセ電機

工場長 立川 智規氏



■さんま

宮古のさんまを食卓に
海洋深層水氷で旨み新鮮そのまま
優良衛生品質管理認定市場で安全・安心



三陸縦貫自動車道でその日のうちに首都圏へ

宮古一仙台間、6時間 → 3時間、半分に短縮
出荷先が関東中心から中部、関西地域まで拡大
輸送時間短縮、販路拡大で「宮古のさんまふるさと便」倍増

■さんまの水揚げ数量(トン)

岩手県	40,841トン	23.9億円	国内第3位
宮古市	16,758トン	10.9億円	国内第7位



■「宮古のさんまふるさと便」出荷量

平成18年度	三陸縦貫自動車道がつなぐと
28,700箱	50,000箱

ゆづバック
宮古水産物販売協同組合



2007年12月10日掲載

■観光



東北縦貫自動車道 → 東北横断自動車道 → 三陸縦貫自動車道 → 三陸北縦貫道路 → 宮古盛岡横断道路

■観光客入込数(千人)

宮古市	1,895
田野畑村	935
遠野市	1,921
釜石市	936
計	5,487
岩手県	37,961

(単位:千人)



高規格道路が全線つながると

宮古 ↔ 遠野間等新たな観光圏域の確立
宮古から岩泉、田野畑まで周遊圏拡大
森・川・海の体験参加型観光に弾み

相乗効果で宮古、遠野の観光客倍増も!